私の工夫

主体的に学び合う授業づくりをめざして
～第6学年での実践～

矢掛町立小田小学校
指導教諭　本多　理恵

1　はじめに

これまで、何度か「やまなし」の教材を指導してきた。宮沢賢治の大ファンでありながら、賢治やその作品の素晴らしさに迫り切れずに、もんもんと単元を終える苦い経験もあった。児童が、賢治や賢治の作品に魅力を感じながら、単元の始めから終わりまで主体的に学ぶ姿や、指導事項の確かな定着をめざして、単元を貫く言語活動の手法を取り入れながら、私なりに工夫して取り組んだ実践を紹介したい。

単元名

宮沢賢治ワールドに迫れ！

『宮沢賢治ワールド』をガイドブックに表そう！

①身に付けさせたい言語能力

○物語の構成や比喩などの優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

○複数の作品を読み、その特徴や作者の物の見方・考え方について考えることができる。

○読み取ったことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

②それにふさわしい言語活動

紹介したい宮沢賢治の本を取り上げてガイドブックを作る。

③それにふさわしい中心教材

「やまなし」「イーハトーヴの夢」（光村図書）

2　指導の実際

（1）第一次　導入の工夫

単元に向かう意欲をもてるかどうかは、導入と大きく関わる。「宮沢賢治」の人としての魅力や、その作品の素晴らしさに迫ってほしいという思いで、「雨ニモ負ケズ」の詩や、教師作成のガイドブック（第三次に児童が作成する形式の物）を活用してブックトークをしたり、司書と連携を図り、教室に30冊ほどの賢治の作品を並べて置いたりした。また、単元の学習の流れを教室に掲示し、これから作る「ガイドブック」は、「宮沢賢治ワールド展」（パソコン室に展示）を開いて、先生方や下級生・保護者等に紹介する計画であることを知らせることで、目的意識と必要感をもって意欲的に学習に取り組む構えをもたせることができた。

（2）第二次

中心教材で、「身に付けさせたい言語能力」を指導する。

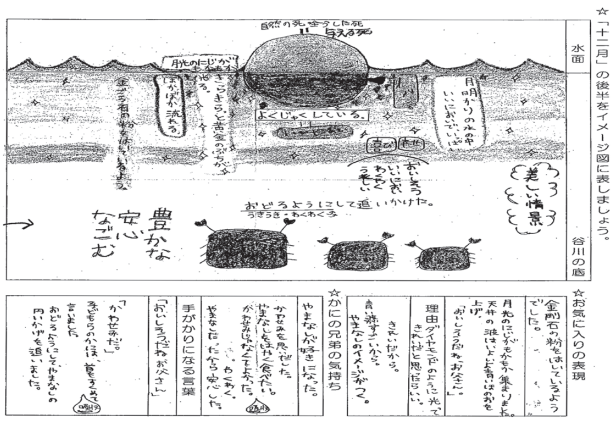
第1時　資料「イーハトーヴの夢」を学習し、賢治の生い立ち・考え方・理想をとらえる。長文なので、1時間でとらえられるよう、年表やワークシートを活用した。賢治の生い立ちや生き方・理想を知ることで、賢治の素晴らしさを感じると同時に、賢治が理想を伝えたいために童話を書いたことも知り、「やまなし」の学習や、並行読書への意欲にもつながった。

あいあいタイム（伝え合い・認め合い・教え合い）
考えを広げたり深めたりできるような課題の設定が意欲につながる。

第2時　全文を読み、文章構成と登場人物に着目し、あらすじをとらえる。

第3時～第6時　情景描写やかにの会話から「五月」と「十二月」の世界を読み取る。

授業では、優れた表現を共有し、叙述に即してイメージを広げ（イメージ図にかき込む）たり、かにたちの心情を読み取ったりするこ



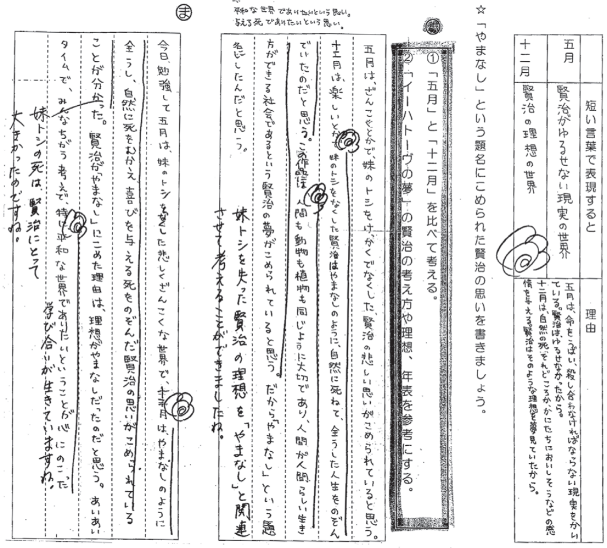
ワークシートの一部

とを中心に学習した。賢治独特の色彩語・比喩・擬態語・造語・情景描写などを書き込み、表現の素晴らしさや、その意味することを話し合うことで、それぞれの世界を深く味わうことができた。

第7時　「五月」と「十二月」を比べたり、賢治の考え方を照らし合わせたりしながら、題名がなぜ「やまなし」なのか理由を考え、作者の「やまなし」に込められた思いを話し合った。「あいあいタイム」として、学び合いの場を大切にしている。賢治の理想や生き方と関連させながら、「やまなし」（十二月の世界）が賢治の理想であるなど、多様な考えを出し合い、考えを広げたり、深めたりすることができた。

(3) 並行読書

第一次、第二次と学習が進むにつれ、賢治の生き方や理想、「やまなし」の作品の魅力に触れた児童は、進んで賢治の作品を手に取り、学習したことと重ね合わせながら読んだ。紹介したい作品が決まったら、優れた表現や賢治の思いが分かる表現に付箋を貼っていき、第三次につながるようにした。目的をもって主体的に読む姿勢が見られた。



第７時のワークシート

優れた表現や作者の思いが伝わる表現に付箋を貼りながら読む。

(4) 第三次

教師作成のガイドブックを参考にしながら、並行読書で選んだ作品のガイドブック（①作者紹介②あらすじ③お気に入りの表現④作品に込めた思い）を作成した。どの児童も、作品の魅力や賢治の思いを伝えたいと意欲的に取り組んだ。

「宮沢賢治ワールド展」や発表の場をもつことで、学習の成果を表現することができた。そして、単元を振り返ることで、身に付けた力を自覚し、成就感を味わうことができた。

単元末の振り返り

3　おわりに

単元の始めから終わりまで、児童の学ぶ意欲を継続していくためには、見通しをもった魅力ある単元計画の設定と、目標に向かって力を付ける指導法の工夫が必要である。そのための教材研究の大切さを改めて実感した。今後も、児童の生き生きと主体的に学ぶ姿をめざしながら、授業改善に向けて努力していきたい。